

代表的な「夏の虫」

夏のお出かけで目にする機会の増える虫に刺されてしまった時の対処法を学んで、今年の夏も元気に過ごしましょう！

夏の虫の 代表格、蚊

蚊に刺されるとかゆみ・発疹の症状がでます。

応急処置

患部をよく洗って冷やす。流水がない場合は濡れタオルやウェットティッシュでよく拭く。

避けるべき行動

刺された部分をかくと皮膚が傷つき、そこから細菌が侵入して化膿する場合があります。

病院に行く目安

患部以外にもかゆみや腫れ、水ぶくれなどの症状がある時、熱やめまいがある時



[特集]注意すべき夏の虫

夏の虫 に刺された時の対処法

今回は夏に注意したい虫と、虫に刺されてしまった時の対処法をご紹介します！



夏に狂暴化する、ハチ

ハチに刺されると腫れや痛み、ひどい場合は血圧の低下・窒息など危険な状態になる「アナフィラキシーショック」により死に至る可能性があります。

応急処置

毒を体外に出すために傷口を強くしぼりながら流水でよく洗って冷やす。

避けるべき行動

入浴・飲酒は避けましょう。アンモニア水や尿をかけても効果はありません。

病院に行く目安

発疹、吐き気、呼吸困難などの症状がある時はただちに救急車を呼んでください。



強力な毒を持つ、ムカデ

ムカデにもアナフィラキシーショックを引き起こす毒を持つ種類があります。ムカデは、家に侵入することもあり注意が必要です。

応急処置

流水で患部をよく洗う。

避けるべき行動

入浴・飲酒は避けましょう。アンモニア水や尿をかけても効果はありません。

病院に行く目安

発疹、吐き気、呼吸困難などの症状がある時はただちに救急車を呼んでください。
ムカデの毒でもアナフィラキシーショックを起こすことがあります。



重症化させない ためには？

虫の毒には、処置を間違えると大事になりかねない危険なものもあります。アナフィラキシーショックの疑いがある場合は、すぐに救急車を呼びましょう。アナフィラキシーショックを起こしたことのある方は、医療機関を受診して指導を受けたいと、応急処置用のエピペンを処方してもらうこともできます。アナフィラキシーショックが疑われたら指導どおりに使いましょう。また、エピペンを使用したら必ずすぐに医療機関を受診しましょう。

(監修:内科/高橋 泰・皮膚科/石浦 信子)

エピペン▶

※写真はイメージです。

